

海外研修報告

PPJSKM (マレーシア体育・スポーツ 科学・フィットネス学会) 報告

前田 博子
(生涯スポーツ学講座)

ないようにスカーフを被るのだが、マレーシアで出会った女性達は、スカーフで頭を覆しているから人前に出ることに何の問題もないとしているように見えた。女性の勢いもこれから楽しみな国である。

(平成12年2月4日 受付)

この学会は、マレーシアの首都クアラルンプールにおいて12月3～6日、「新世紀における体育・スポーツ」というテーマで開催された。

発表では、日本女性のスポーツ活動状況を参加率のデータで示し、中年期女性が活発なことと、中年期女性のスポーツ活動の場として、主婦や母親を対象とした様々な種目の大会が開催されていることを紹介した。50歳位の女性が、バレーボールやテニスに興じる映像はなかなか好評であったが、それらが「主婦」や「母親」の身分にこだわりを持っていることで、未婚率の上昇による今後の問題提起をしたところ、マレーシアも未婚率は上がっているという声があった。これは先進諸国だけでなく、途上国の先端諸国にも共通の問題となっており、このことがスポーツを含めた女性の社会・文化活動にどのように影響を与えていくのか興味深いものである。

私が関心を持っていたのはイスラム教徒ムスリムと女性スポーツの関係であるが、マレーシアを構成するマレー系、中国系、インド系の中で、マレー系が女性競技者に占める割合は圧倒的に低いというデータが出されていた。また、ムスリムの宗教による服装の制限などによってもスポーツを行っていくという議論もあった。さらに、運動の全く出来ない女性体育教師もまれではなく、女性はスポーツができないという役割モデルになっているとの問題発言もあった。予想通り、宗教が女性のスポーツ活動を制限しているようだが、それが重大な問題として認識され議論されていることが分かった。

マレーシアは、2020年に先進国の仲間入りを果たすという目標に向かって、疾走している国である。敬虔なムスリム女性は人前に顔を晒すことの